



第37回 全国高等学校総合文化祭

しおかぜ総文祭

集え長崎 帆を張れ文化の船に

県教育庁学芸文化課
全国高総文祭推進室 ☎894-3387

開催迫る! 高校生の文化の祭典!!

全国高等学校総合文化祭(総文祭)は、昭和52年から毎年開催されている、高校生最大の文化の祭典。文化部のインターハイともいわれていて、長崎県での開催は今回が初めてです。

県全体では24部門で、若さあふれる高いレベルのステージや作品が発表されます。パレードをはじめ、演劇や器楽・管弦楽、囲碁、百人一首かるた、新聞…、とさまざまな分野にわたるのも、総文祭の面白さの一つです。

各部門大会は、自由に観覧できますので、興味がある部門を見つけて、ぜひ足を運んでみてください。

また、総文祭には全国から約2万人の高校生と、あわせて約10万人ものお客さまがやってくるといわれています。会場はもちろん、まちの中でも、たくさんの人で賑わう様子を想像するとワクワクしてきますね!

今回の特集では、開催日の7月31日まで、いよいよあと3カ月程と迫ってきた総文祭に向けて、着々と準備を進める高校生たちの、熱い思いをご紹介します!



めいろん
美龍
マスコットキャラクター

7月31日から8月4日に
開催される総文祭。
長崎市内では、9部門が
開催されます。

長崎北高校
オーケストラ部



特集
 市政
 長崎市民
 プレゼント
 生活情報
 健康
 子育て
 福祉
 税
 講演・講座
 もよおし
 おしらせ
 募集

長崎の夏がもっと熱くなる!!

長崎市内で行われる9部門のうち、4部門で出場する生徒をご紹介します。
 総文祭へ向けて、熱い想いを生徒の皆さんは持っていました。
 若さとパワー、そして情熱あふれる高校生の姿は
 あなたをきっと感動させるはず。

演劇

8/2(金)～4(日) 公会堂

全国8つのブロックから推薦された12校が3日間にわたる情熱の舞台をお届けします。60分という規定時間の中で魅せる熱演は、見る人を感動の渦に巻き込みます。



瓊浦高校演劇部

瓊浦高校演劇部は、県で九州大会最多出場記録を持つなど、伝統と実績のある部です。

普段の練習は、部員同士で演技を見せ合いながら行うので、緊張の連続。そして、部員同士で活発に意見を出し合います。

「滑舌が悪かった」「相手を見て『会話をしないと』と敵しい意見が出る中、「今のは表情が良かったよ!」と、素直にほめ合うこともあります。

また、出演希望者は、全員ステージに立るといふ伝統があるので、部員は「自分が主役」という気持ちを持って、練習に臨んでいます。

実は、この演劇部が演じる作品は、ミュージカルなどで有名な「劇団四季」原作の「南十字星」。昭和の戦争

器楽・管弦楽

8/3(土)・4(日) 長崎ブリックホール

管弦楽、弦楽、ギター、ハンドベルなど、さまざまな楽器による演奏です。ジャズ、ポップス、クラシック…、ジャンルを超えて織り成す豊かな音の世界をご堪能ください。





60 分間の舞台に想いを込める

の実相と歴史を知ることができこの作品は、日本敗戦後に、戦犯として、絞首刑の判決を受けた保科少尉に焦点が当てられています。

「台本はすり切れるほど読んでいます。覚えるというより、体に染みこませる感じ。まだ、新体制になつたばかりで役が決まっていなくても、どのような役になつても、作品に恥じないよう演じきりたい」。そう熱く語るのは部長の有村さん。

「総文祭ではセリフの一言一言に想いを込めて、見る人に多くの感動を与えたい」。強い志を持って、演劇部は今日もすがすがしい声を校舎に響かせます。

発声練習で体を温め、台本読みへ。意見を言い合えるのは、向上心があればこそ！「元氣一番」の演劇部です。



長崎北高校オーケストラ部

長崎北高校オーケストラ部は、県代表として島原高校、活水高校と合同チームで出場します。

演奏する曲は「ラプソディア ナガサキ」。曲について、管楽器部長の藤原さんは、「長崎を象徴した曲です。おくんちのしゃぎりや龍踊り、童歌『でんでらりゆづば』も登場します。そして平和への願いも込められています」と、語ってくれました。

曲の雰囲気は場面で大きく異なります。重厚で胸に響く演奏は、平和への願いを。突然聞こえる、木琴の軽快な音は、思わず口ずさみたくなる『でんでらりゆづば』。龍の鳴き声はおくんちをイメージ…。

この長崎らしさがぎゅっと詰まった曲には、部員全員の大きな願いが込められています。それは、「聴く人に長崎のことをもっともっと良く知ってほしい、長崎の想いをオーケストラで表現したい」というもの。

だからこそ、練習の時間はいつもきも無駄にしません。演奏は心を一つにして音を合わせます。時間があれば、互いに教え合いながら、腕に磨きをかける努力も怠りません。

「メドレーなのでテンポが急に変わるところが難しい。でも、練習を重ねて、きつと素敵な音色をお届けしますねと、弦楽器部長の森永さん。本番まであと3カ月、他校との合同練習も、大詰めを迎えます。この曲の集大成がとても楽しみです。

心一つに、長崎の想いを音楽にのせて



管楽器部長の藤原さんと弦楽器部長の森永さん



部員は52人(新1年生除く)。音を合わせる真剣なまなざしには、代表校としての誇りが感じられました。

新聞

7/31(水)～8/4(日) 長崎新聞文化ホール

各都道府県の新聞部代表が一堂に集い、日ごろの活動の成果である新聞作品を展示するとともに、交流会やコース取材をもとに交流新聞を作成します。



総文祭と長崎の 魅力を、記事に記し 記憶に残す!!

長崎工業高校新聞部

毎月、学校の出来事などを記事にした、「工業つ子」という新聞が校内に配られています。その編集をしているのが、新聞部です。

新聞部は、取材から写真撮影、専用ソフトを使った紙面づくりまで全てを生徒が行っています。7人の部員は「生徒目線の記事づくりを心掛けていきます」と、にっこり。

総文祭では、「交流新聞づくり」をします。これは、全国の約300人の新聞部員が混成チームをつくり、長崎市内を6つのコースに分かれて取材し、記事づくりを行うというもの。さまざまな県の人と交流しながら、長崎の魅力を発信するのです。

「地元で精通している分、他県の人をひっぱっていきけるよう頑張りたい。取材ルートの下見などもこれまで行ってきました。あとは、本番に向けて、記事づくりの基本である、文章力やカメラ技術などを高める努力をしたい」と、部長の小平さん。

同校新聞部は、この交流新聞づくりにとどまらず、総文祭の総合開会式の様子などをお知らせする「速報新聞」の制作にも携わるそうです。現場を走る新聞部の姿をみかけたら、「頑張ってる!」と、ぜひ一声かけてみてはいかがでしょうか。

総文祭と長崎の魅力発信に「交流新聞」「速報新聞」は、きつと大きな力を発揮するでしょう。

写真

7/31(水)～8/4(日) 長崎歴史文化博物館ほか

各都道府県から選抜された約300点の作品を展示します。高校生の若い感性がきらりと光る全国トップレベルの作品の数々をご覧ください。



白黒だからこそ 表現できる ものがあります

活水高校写真部 田崎千尋さん

昨年行われた写真部門のプレ大会。予選会を通過した300点が展示され、その中から県代表として総文祭へ8点が選出されました。その中の1点が、田崎さんの作品です。

「選ばれた時は、とにかくびっくりしました。カメラを握ってまだ1年も経っていなかったのです。」

『だいたすき!!』という彼女の作品は、日常の母子のやわらかな表情を捉えたもの。だっこひもに優しくくるまれた赤ちゃんの笑顔と、1枚の写真に見事に切り取っています。

そして、驚くのは「フィルムカメラ」で撮った「白黒写真」ということと、撮影から現像までを自らが行っているということ。フィルムカメラで撮影した写真は、校内の暗室で処理を進め、印画紙に光を当てる時間を変えて、色の濃淡を調整するそうです。明るくし



長崎市内開催の他の部門

部門	期日	場所
美術・工芸	7/31(水) ～8/4(日)	長崎県美術館
小倉百人一首かるた	8/2(金) ～8/4(日)	長崎県立総合体育館
文芸	8/2(金)	長崎原爆資料館 ほか ※一般のかたは参加できません
高校生文化祭サミット	8/1(木)・ 2(金)	長崎ブリックホール
特別支援学校	7/31(水) ～8/4(日)	長崎県美術館

詳しくは、ホームページ「長崎しおかぜ総文祭」で検索!!

企画・運営も高校生が主役。 発想力と行動力に期待!

総文祭は企画・運営も生徒が中心となって行っています。その中心となるのが、実行委員会。県内全ての高校から2～3人ずつの生徒が集まり、約500人で構成されています。そして、「しおかぜ生徒委員会」「総合開会式生徒委員会」「広報・デザイン生徒委員会」「国際交流生徒委員会」「記録・イベント生徒委員会」の、5つの各種委員会と24の部門委員会に分かれています。

県内全ての高校から実行委員会に参加するのは、全国でも初の試み。試行錯誤しながらも、生徒同士でアイデアを積極的に出し合い、これまで、各部門のプレ大会などを、生徒の思いと長崎らしさが詰まったとても印象深いものにしてくれました。

本番では、私たちにどのような高校生の文化の力を魅せてくれるのか、今後の実行委員会の活躍にも目が離せません!



生徒実行委員会 執行部の皆さん



生徒実行委員会 副委員長
長崎東高校
川浪 美希さん

私たちのパワーを、
文化部のすばらしさを
知ってくださーい!!



◀「工業っ子」制作は、
毎月総動員で!!



▶県内の高校が集まり、総文祭リハーサルを行いました



デザイン、イラスト、文章…、部員それぞれの持ち味を総文祭で発揮します!



◀部活動では、部員同士で構図の意見交換なども行います

▶暗室での現象の様子(実際は暗闇で行います)



たい部分、暗くしたい部分にどのくらい光を当てるか、技術を要します。「撮影だけでなく、暗室作業にもこだわるところが面白いです。実は今回の作品のプリントには2日かかりました。皆さんにはこの作品を見てほっこりしてほしいですね」と、語ってくれました。

作品は本番までお見せできませんが、カラーが多い出品の中でぎっと「異色」を放つはず。ぜひ、あなた自身の目で、確かめてみてください!